

自ら学び続ける子どもを育てる授業づくり ～「協働的な学び」の充実を通して～

(2年次 / 3年計画)



研究テーマ

自ら学び続ける子どもを育てる授業づくり
～「協働的な学び」の充実を通して～

(3年計画)

主題設定の理由

本校の現状から

障害の多様化や在籍する児童生徒数の増加

自ら学びに向かう力が弱い

「地域学習」のねらいの再確認が必要

これまでの研究から

教育的ニーズに応じた授業づくりの成果

学校教育目標→学部目標→学年で育てたい姿の具体化の継続

学部間及び社会とのつながりの検討が必要

学習指導要領から

社会が変化する中で育むべき資質・能力

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

1年次の成果と課題



成果

教育課程を支えるマネジメントサイクルの構築

各学年の目指す姿や各教科等で学ぶ内容や育成される資質・能力を、共有・改善・評価する学年会を定期的に実施

学部間・学年間の「目指す姿」のつながりの明確化

学校教育目標に沿った「各学年で目指す姿」を基に、キャリア教育の視点で学部間のつながりを確認

自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント

各学部の実践で、個別最適な学びと協働的な学びを意識した単元計画や学習活動の工夫、実態に応じた支援の工夫を考え、授業づくりに反映



課題

「自ら学び続ける子ども」の具体的な姿とは？

教師同士が互いに学び合える授業研究を！

仮説

自ら学び続ける子どもの育成

キャリア教育の視点に立った系統的で発展的な学びの積み重ね

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図った授業づくり

内容と方法（2年次）

1 「自ら学び続ける子ども」と、授業における児童生徒のねらいとのつながりの明確化

2 自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイントの活用

3 児童生徒の姿を基に、教師同士の対話を通して子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ね

事前検討

対象児童生徒を設定した授業づくり

シミュレーション

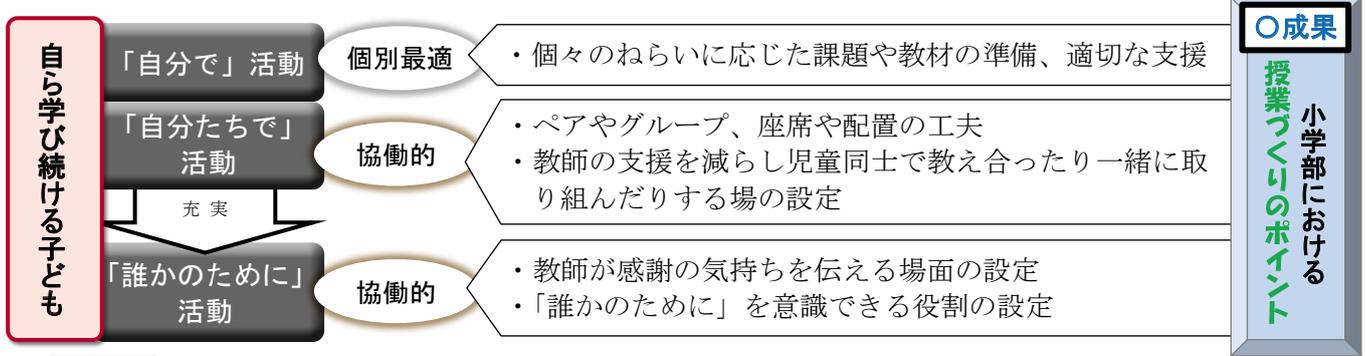
授業協議

小学部

昨年度の研究から

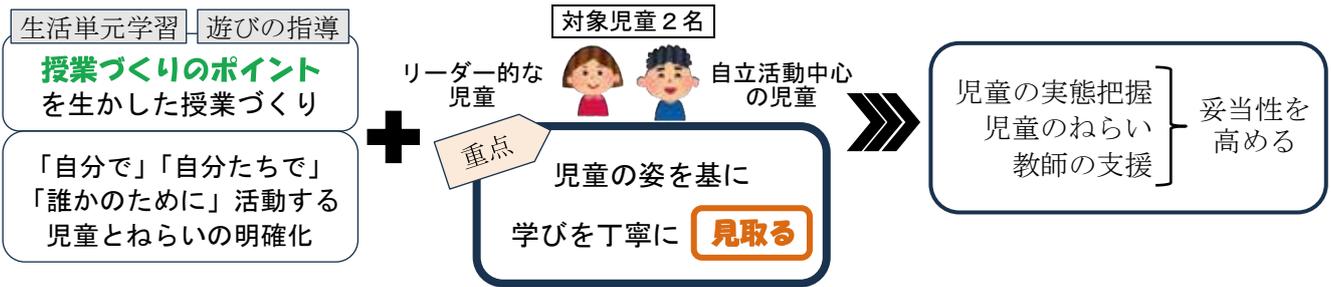
学部研究テーマ

「自分で」「自分たちで」「誰かのために」活動する児童の育成
～日常生活の指導における個別最適な学びと協働的な学びの視点から～

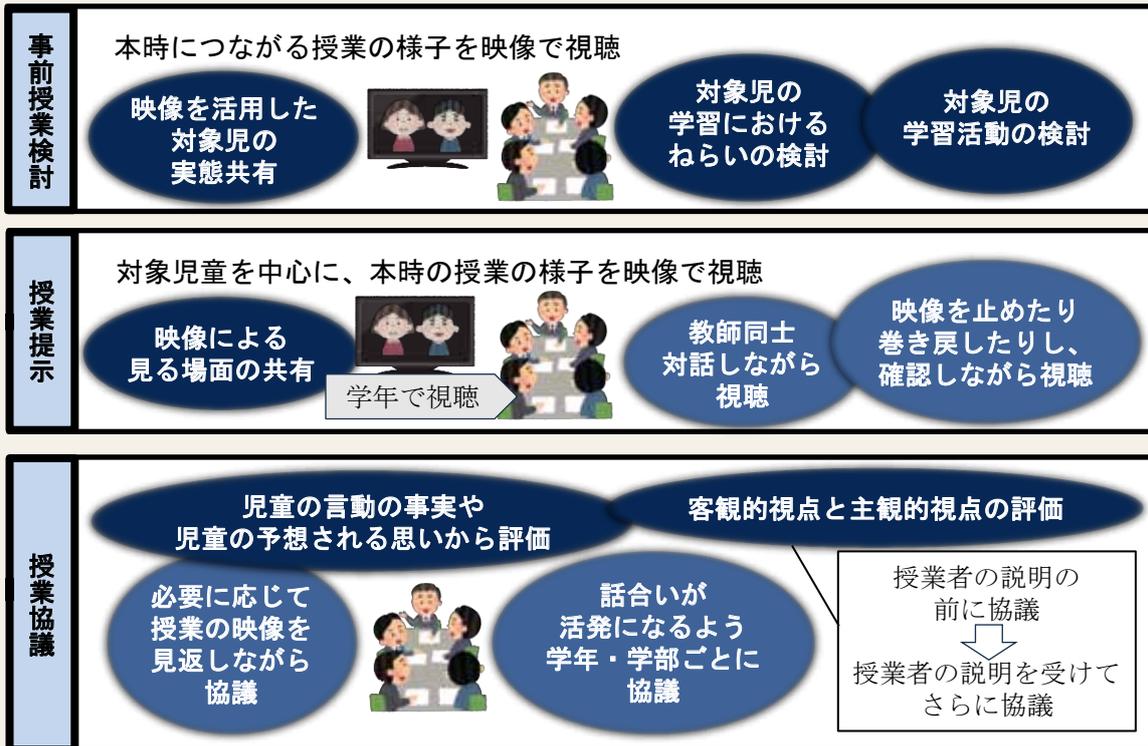


▲課題 児童の変容や学びを教師同士で共通認識することや、そのことについて話し合う場の設定

今年度の学部の取組

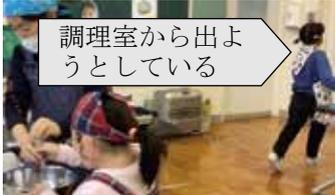


見取り方



<主な学習活動>年間を通し、ホットケーキ作りを行いながら自分たちでパーティーの準備をする。本時はクリスマスパーティーに向けて準備をした。

授業改善の一例（対象児童：自立活動中心の児童）



調理室から出ようとしている

事前授業検討



授業提示

ランチョンマットにフォークを置いている



児童の得意なことを生かした活動を設定してはどうか

役割分担し、みんなで協力して作ってはどうか

<学習活動>
1人1枚ホットケーキを作る

<対象児童のねらい>
1人でホットケーキの種を作る

<対象児童の様子>
大声を出したり、調理室から出ていったりして参加できないことが多い。

<学習活動>
役割分担し、みんなでホットケーキを作ったりパーティーの準備をしたりする
「自分たちで」

<対象児童のねらい>
目印を見てランチョンマットにフォークを置く

<対象児童の様子>
やる事が分かって、自分からフォークをランチョンマットの上に置いていた。逸脱することなく、最後まで活動に参加していた。
「自分で」

まとめ

自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりに向けて ○成果／▲課題・改善

「自ら学び続ける子ども」と授業における児童生徒のねらいとのつながりについて／児童生徒の姿を基に、教師同士の対話を通して子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ねについて

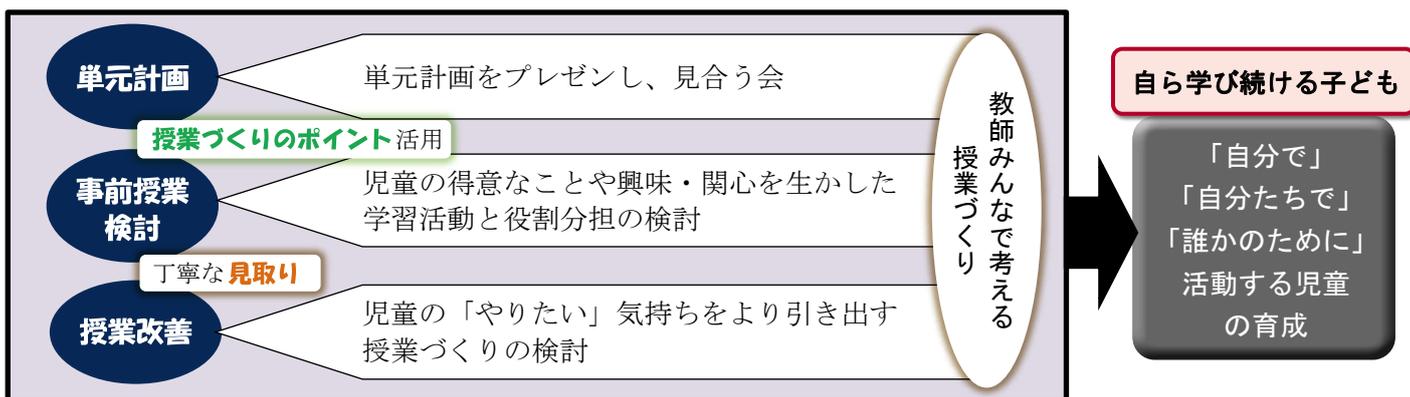
- 事前検討で、児童の実態を映像で見たり、児童の予想される思いから本時のねらいを考えたりしたことで児童が自ら行動するための学習活動や支援方法を考えることができた。
- 同じ学年、学部ごとの教師による協議グループにしたことで、話し合いが活発になっただけでなく、自分たちの学年の児童や指導についても触れながら話し合うことができた。
- ▲動画や説明だけでは十分な実態把握ができず、児童の思いを見取ることが難しい場面もあった。
- ▲児童の主体性をより引き出すために、児童の「やりたい」という気持ちと教師の期待する姿を擦り合わせながら「自分で」「自分たちで」「誰かのために」活動する姿を考えていく必要があった。

自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイントの活用について

○昨年度の成果である授業づくりのポイントを生かし、今年度新たに教師の待ったり見守ったりする支援を大切にすることで、児童が「自分で」「自分たちで」「誰かのために」活動する姿が多く見られた。

次年度に向けて

1・2年目の研究の成果を生かし、児童の「やりたい」という気持ちを大切にしたい授業づくり



中学部

昨年度の研究から

学部研究テーマ

「他者との関わりの中で、考えを深めたり自ら行動したりするための学習活動と手立ての工夫」
～進路学習の授業づくりを通して～

【取組】

資質・能力の育成を目指した指導計画の立案と生徒の姿を通じた評価・改善

進路学習内容表を基にした指導計画の作成・評価

協働的な学びの充実に向けた単元計画や学習活動の工夫・改善

【成果と課題】

- 学部や学年の目指す姿に向けて必要な学習内容が明確になった。
- 学业内縦割りグループや学年ごとの話し合いを通して、各学年や各グループでどんな学習内容を扱うのか進路学習内容表を基に検討できた。
- 協働的な学びの充実に向けた様々な手立ての工夫ができた。
- ▲3年間を見通した指導計画の作成と授業時数の確保
- ▲人や物との関わりを通して気付いたことや、自分の考えや行動がどのように変化したか学びを実感できる授業づくり

今年度の学部の取組

学習内容の検討

- ・学習内容表の活用
- ・単元検討会
- ・「職業・家庭科」の指導内容を参考に

生活単元学習「進路学習」

- ・生活単元学習の時数の中で進路学習を週2時間設定
- ・教育的ニーズに応じたグループで学習

授業づくりのポイントの活用と対象生徒の実態や学びを見取りながらの授業検討

- ①ミニ事前授業検討会
- ②学部での事前授業検討会
- ③授業シミュレーション
- ④授業提示→授業協議



3年間を見通した学習内容を目指して

授業の実際

3年Aグループ 単元名「働くってどんなこと？」

<主な学習活動とねらい>

- ・スーパーマーケットでのインタビューをまとめ、業務内容の違う4つの部門に共通する「働くために必要な力」を見つけ、学校生活での自分の目標設定に生かす。



<事前授業検討>

働くことへ
よいイメージを

自分の考えや気持ち
の変化を表出する
機会が必要



- ・インタビュー項目やワークシートの内容を工夫

<対象生徒の実態>

- ・働くことへの具体的なイメージがもてない
- ・学校生活での目標設定が曖昧
- ・自分を客観的に見る力が乏しい

<対象生徒の変容>

- ・仕事内容を具体的に知り、自分の得意不得意と関連させて考える姿
- ・学習を通して考えたことを、理由とともに伝える姿



1年Cグループ 単元名「中1おたすけたい～こまっているひとのためにはたらこう①」

<主な学習活動>

- ・職員室や寄宿舎から依頼されたごみ捨てや清掃を通して、様々な職員と関わる経験と感謝される体験を積み重ねる。



<事前授業検討>

即時評価が
伝わりやすい

動機付けが
大切



- ・依頼動画を作成→導入で活用
- ・活動後、すぐに評価される花丸カードやポイントシールの導入
- ・エプロンやごみ収集カートなど道具の工夫

【助言から】
土台となる勤労
観をしっかり育
てることが重要

<対象生徒の実態>



- ・関わる人が限定的
- ・最後まで自分たちでやり遂げる経験の少なさ
- ・恥ずかしさや自信のなさ

<対象生徒の変容>



- ・普段関わりの少ない人と目を合わせて話す姿
- ・自信をもって活動する姿
- ・感謝されるうれしさの蓄積



まとめ

自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりに向けて ○成果／▲課題・改善

「自ら学び続ける子ども」と授業における児童生徒のねらいとのつながりについて

- 対象生徒の実態を事前検討で共有し、授業シミュレーションでねらいを達成した具体的な姿を検討することで、対象生徒の育てたい力について考えることができた。
- ▲事前検討で話し合ったことがどのように改善されたか、学年で再検討する機会が必要だった。
- ▲対象生徒のねらいが「自ら学び続ける姿」とどのように関連しているかを分かりやすく指導案に表せるとよい。

自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイントの活用について

- 授業者同士や学年での指導案検討を通して、ポイントを指導観に反映できた（多様な人材の活用、インタビュー、見学、タブレット端末の活用など）。
- ▲授業づくりのポイントを、生徒の実態や単元の流れに応じて、どこでどのように活用するのが効果的か学部全体で定期的に検討する必要がある。

児童生徒の姿を基に、教師同士の対話を通して子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ねについて

- 授業者、学部主事、副主事、教育専門監、研究部でのミニ検討会、学部での事前検討会、授業シミュレーションを計画的に実施できた。
- 子どもの学びを見取る方法や対象生徒を共通理解する場の設定により、事前検討やシミュレーションで具体的な姿をイメージして効果的に意見交換できた。
- ▲対象生徒の姿から授業全体について検討し、改善につなげるような協議の工夫が必要である。

次年度に向けて

できること・やりたいこと・社会から求められることの重なりを広げる視点での授業づくり

- ・様々な集団の中で自分の役割を果たす経験と、他者から認められたり必要とされたりする経験を積み重ね学んだことを実感し、自分から考え、意欲をもって行動する姿につながる授業づくりを検討していく。

高等部普通科

昨年度の研究から

学科研究テーマ 「よりよい自分を目指して、自ら行動する生徒を育成する授業づくり
～『協働的な学び』に重点を置いて～」

「育てたい資質・能力」と学習内容の検討

学年間・学部間のつながりを視点にした話し合い

「協働的な学び」の実現に向けた単元計画や学習活動の工夫・改善

【成果と課題】

- 「育てたい資質・能力」を具体的な生徒の姿として確認し学期ごとに評価することで、次の学期の重点に活用できた
- 学校行事や各教科等の単元間のつながりを意識して、学習内容や時期を整理し、見直しができた
- 協働的な学びの実現に向けて、活動グループの工夫、ICTの活用、個別の学びと集団の学びをつなぐ工夫の重要性が共通理解できた
- ▲生徒同士の関わりを増やし、意図的な役割や活動を設定するなどの協働的な学びを充実していく必要がある

今年度の学部の取組

- ・「生活単元学習」が「協働的な学び」を方法として導入しやすく、かつ、「自ら学び続ける子ども」を目指していく上で最も効果的な授業であると考え、学科研究対象授業に設定した。
- ・事前授業検討の充実に向け、各学年で中心単元検討を行い、生活単元学習の単元計画や学習内容を検討したり、共通理解を図ったりした。更に、授業改善アドバイザーから助言を受けながら、授業内容を検討したり、具体化したりした。

授業の実際

普通科2年3組 単元名「チャレンジ！チームワーク！チェンジ！～宿泊学習事前学習編～」

<主な学習活動とねらい>

各クラスで宿泊学習先（八峰町）の自然や文化等を調べ、学年全体で発表会をすることで、宿泊学習先の知識を深めたり、宿泊学習への期待感を高めたりする。

昨年の宿泊学習から今年の宿泊学習、更に来年の修学旅行のイメージを

<事前授業検討>



学んだことが発揮できる活動内容を



- ・学びのつながりの検討
- ・生徒の主体的な活動を引き出す仕掛けづくり



<対象学年の実態>

- ・宿泊学習への抵抗感や不安感
- ・自分本位な関わり

<教師の思い>

- ・安心して活動できる環境を整えたい



<対象学年の変容>

- ・苦手なことにも取り組む姿
- ・相手の気持ちを考えた関わり
- ・主体的に学ぶ姿



普通科3年
単元名「クライム マイ マウンテン ～栗田祝い太鼓編～」

<主な学習活動とねらい>

「栗田祝い太鼓」の歴史を調べたり、校内外での太鼓演奏の企画・運営をしたりすることで、伝統を大切にしたい気持ちをもって太鼓演奏をしたり、友達と協力して調べたことをまとめたりする。

<事前授業検討>

互いに評価し合って
改善できるペアやグ
ルーピングの工夫を



生徒が主体的に活動できる
ような発表の機会の工夫を

- ・少人数での学習活動や協働して活動する場の設定
- ・生徒の得意なことやできることを生かした活動

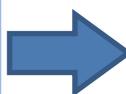


<対象学年の実態>

- ・太鼓演奏への漠然とした思い

<教師の思い>

- ・社会人として必要なコミュニケーション能力の向上を図りたい



<対象学年の変容>

- ・伝統を大切に演奏する姿
- ・後輩に伝えたい気持ち
- ・個の思いから集団への思いへ



まとめ

自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりに向けて ○成果／▲課題・改善

「自ら学び続ける子ども」と授業における児童生徒のねらいとのつながりについて

- 「育てたい資質・能力」と単元における生徒のねらいとのつながりを意識して授業内容を検討できた。
- 「自ら学び続ける子ども」を意識したことで、学んだことを生かし、学習活動や学習計画を生徒が考え活動する機会を設定するなどの工夫ができた。
- ▲学科での「自ら学び続ける子どもの姿」の具体性やその共通理解が不十分だった。
- ▲一回の事前授業検討だけでは本時の授業内容を深めるまでに至らなかった。
- ▲各学年の取組や成果を共有する機会が不十分であった。

自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイントの活用について

- 生徒の主体性を引き出す仕掛けづくりを教師が意識的に工夫できた。
(生徒の得意なことを生かした役割や活動内容の設定／ペアやグループなど多様な学習集団の工夫)
- 生徒の分かりやすさにつながる ICT の活用ができた。

児童生徒の姿を基に、教師同士の対話を通して子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ねについて

- 生徒の思いや考えに寄り添った教師の意識の向上が図られた。
- ▲対象生徒の見取りだけでは授業全体の改善につながりづらい。

次年度に向けて

学科における「自ら学び続ける子どもの姿」の具現化と共有

- ・「自ら学び続ける子どもの姿」について、授業場面での具体的な姿として学科で共有

事前授業検討の充実を図るための研究体制の構築

- ・検討事項が焦点化された事前授業検討の複数回の実施
- ・各学年の取組や成果を共有する機会の確保

昨年度の研究から

昨年度の学科研究テーマ

「学びをよりよい思考、行動に生かす生徒の育成を目指した授業づくり」
～専門教科「流通・サービス」での取組を通して～

【取組】

学年ごとに「育成を目指す資質・能力」の明確化

- ・ 育てたい力の明確化
- ・ 教科ごとの学習内容検討
- ・ 学習活動や手立てを評価・改善

教科横断的視点を取り入れた「年間学習計画表」の作成

- ・ 専門3教科の学習内容の整理と検討
- ・ 学年や学科全体で学習内容の検討と共有

【成果と課題】

- 系統性・発展性のある「職業科」計画の立案
- 生徒のねらいの達成状況や進路希望に応じた専門3教科の実施時期や内容の見直し
- ▲ 個に応じた方法で学び、他者との関わりの中で学びを深める場の設定（他教科においても）

今年度の学部の取組

- ・ 昨年度の研究の成果と課題から、協働的な学習活動を引き続き実践し、個に応じた手立てや環境設定の工夫をさらに行う必要があることから、教科「福祉」を学科研究対象授業とした。
- ・ 「自ら学び続ける子ども」を目指し、生徒の実態に応じた手立ての工夫、授業づくりのポイントの活用、生徒の学びを丁寧に見取る評価の積み重ねを重点に以下の実践を行った。

学習サイクルの確立



協働的に行う学習活動の展開



学びを実感する機会の設定



外部講師（介護のプロ）との連携

外部講師は年間18回来校し、以下について日常的に情報交換をした。

- ・ 生徒の実態の共有や授業内における行動の評価
- ・ 高等部1年時において身に付けてほしい力の確認
- ・ 入浴介助の指導をする際に気を付けることや介助者としての心構え
- ・ 介助をする際の環境整備の仕方や利用者への声の掛け方



授業の実際

総合サービス科 1年 福祉科 題材名「生活支援技術 入浴介助～手浴～」

＜主な学習活動＞

- ・生徒が介護者と利用者の双方を体験することを通して、入浴をする目的や介護現場における正しい介助方法を学ぶ。



知識と技術を
一体的に学んで
ほしい

【事前授業検討】



学んだことを
具体的に
言語化してほしい



- ・介助を繰り返し実践し評価する機会の設定
- ・生徒の実態に応じたワークシートの工夫

＜対象生徒の実態＞

- ・気付きや学びの表出が抽象的である。
- ・知識や技術の定着に課題がある。
- ・福祉に興味があり、学習に意欲的である。
- ・活動への見通しをもつことで、進んで学習に取り組める。



＜対象生徒の変容＞

- ・集団の中で気付きや学びを得る姿
- ・具体的な言葉で学びを表現する姿
- ・相手の心情を考えて介助する姿
- ・生徒同士で介助を試行・改善する姿

まとめ

「自ら学び続ける子ども」を育てる授業づくりに向けて ○成果／▲課題・改善

「自ら学び続ける子ども」と授業における児童生徒のねらいとのつながりについて

- 生徒同士で介護を実践し合う機会を通して、段階的に知識や技術を習得することへとつながった。
- 気付きを伝え合う活動は、新たな発見や学びへとつながり、次時の実践で生かそうとする姿へとつながった。
- ▲気付きや学びを自ら積極的に表現するための手立ての工夫。

「自ら学び続ける子ども」を育てる授業づくりのポイントについて

- 学んだことを実践し、評価・改善する学習サイクルは、知識と技術を一体的に学ぶことへとつながった。
- 学習の理解度や生徒同士の相性を踏まえたグルーピングをしたことで、互いの意見を伝え合い、進んで活動する姿へとつながった。
- 教師が「なぜ？どうして？」と問い掛けることで、生徒が思考を深め、次時の学習課題を見付けるきっかけとなった。

児童生徒の姿を基に、教師同士の対話を通して子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ねについて

- 外部講師の方との情報共有を通して、生徒のみならず職員の専門性も高める機会となった。
- ▲自ら学び続ける姿を職員間で共有し、様々な人から学習の成果を評価される機会の設定。

次年度に向けて

自ら気付き、考え、表現する機会を大切に学習活動の展開

生徒自身の気付きや考えを積極的に表現するための工夫（学習課題の設定の仕方、発問や教材の工夫など）を様々な教科で取り組んでいく。

各教科における「自ら学び続ける子ども」の姿の明確化

教科における目標を確認し、指導の方向性や重点事項を学科全体で共有する。
生徒の実態を定期的に捉え直し、学習を通して自ら学び続ける姿を具体化する。

寄宿舍

昨年度の研究から

寄宿舍研究テーマ

「学んだことを自分の力として活用できる生徒の育成を目指した生活指導の実践」
～生徒同士の学び合いや体験的な活動を通して～

【取組】～洗濯とアイロン掛けの場面を中心に～

- ・ 生徒同士の学び合いの場面設定
- ・ 地域資源の活用を含めた体験的な活動場面の設定
- ・ 学部・保護者との連携

【成果と課題】

- 学び合いの場面から、自分に合った技術を習得
- 体験的な活動から、卒業後につながる新たな知識を習得
- 場所や場面が変わっても身に付けた知識や技術を発揮する姿
- ▲ 学んだことを自分の言葉で伝えながら、友達や職員の前で披露する場面の設定



今年度の取組

～洗濯から収納までの場面を中心に～

個別の生活指導計画に基づいた
日々の生活指導で、知識や技術
を教えることを基本として！



【 取組の3本柱 】

- (1) 生徒同士の学び合いを広げ、深める場面の設定
- (2) 実生活への結び付きを意識した、体験的な活動の拡充
- (3) より密な学部・保護者との連携



取組の実際

(1) 生徒同士の学び合いを広げ、深める場面の設定～学習会(スタイリッシュゼミ、レディースデー)～



学習会で学びたい内容
についての話し合い



手本を示す生徒と、学習内容の
板書をする生徒に役割を分担



普段、関わりの少ない生徒同士を
グルーピング



学習会のアドバイザー役として、
舎監や宿直指導員も参加



生徒へアンケートを実施し、
学びの進み具合を確認



お互いの生活技術を紹介し合う
場面を設定



(2) 実生活への結び付きを意識した、体験的な活動の拡充～クリーニング店・コインランドリー体験～



クリーニング店主を講師に招き、アイロン掛けを教わる



生徒からの質問に、講師から回答をもらう



クリーニング店利用体験

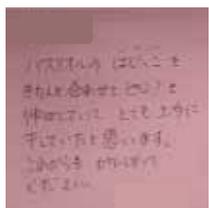


シューズクリーナー運転操作体験

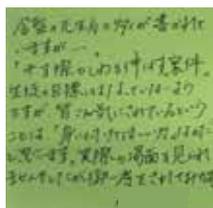
(3) より密な学部・保護者との連携～研究授業等の参観、舎監からのメッセージ、寄宿舎通信の発行～



学んだことを生かしているか、授業参観で確認



舎監からの生徒への称賛や職員へのアドバイスを指導に活用



寄宿舎通信を通じた、寄宿舎・家庭での生徒の頑張りや取組の発信

まとめ

学んだことを自分の力として活用できる生徒を育成するために ○成果／▲課題・改善

生活に関する知識や技術をインプットする機会

- 生徒が興味をもつ内容の指導場面・学習会の設定
- 生徒同士の関係性や相性に着目したグルーピング

学んだ知識や技術をアウトプットする機会

- 生徒が習得してきた生活技術を、他者に伝える場面の設定
- ▲生徒が学んだことを、言語化して振り返る機会の設定

他者から評価される機会

- 友達や職員から、認められたり、褒められたりする機会の設定

学びの継続と活用の機会

- ▲学んだことをブラッシュアップしたり、他場面でも進んで活用したりするための工夫

生徒の変容

△△について知りたいなあ…

舎監の□□先生からアドバイスをしてもらったことに、チャレンジしてみよう！



ハンカチにアイロンを掛けてあげたら、お母さんが喜んでくれた。また、やろう！

自分の得意分野なら、友だちに教えてあげられそう…

憧れの○○さんに教えてもらった方法で私もやってみよう！

次年度に向けて

学んだことを言語化する機会の設定

学んだことの定着を図るため、振り返りの場を増やし、他者に伝えたり教えたりする機会の設定を充実させていく。

学んだことをブラッシュアップしたり、活用したりするための働きかけ

学んだことを般化させたり、より自分に合った方法を選んだりできるように、生徒の実態や希望に合わせた学習会等を充実させていく。

研究の実際

①「自ら学び続ける子ども」と、授業における児童生徒のねらいとのつながりの明確化

自ら学び続ける子ども

- ・主体的に物事と関わり続けようとする子ども
- ・問題解決に向かって自ら考えたり行動したりする子ども
- ・多様な他者と関わりながら、自分の考えや他者の考えに気付き、自分の考えを再構成していく子ども

1年次の成果から具体的な姿を提示

授業では



「なるほど!分かった!」
 「できた!次はもっとこうしたい」
 「知りたい!やってみたい!」
 「なぜ?こうなるんだろう」
 「どうして、そう思うんだろう?」

このような思いを引き出すための学習活動や単元計画、支援の工夫を検討

②自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイントの活用

児童生徒一人一人が自ら活動したり考えたりすることができる状況づくり

自然な協働性を生むテーマ設定や学習活動、学習集団の工夫

多様な場や人材の活用



学習活動や単元計画、支援の工夫に活用

③児童生徒の姿を基に、教師同士の対話を通して子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ね

事前検討

教師同士の対話を通して

シミュレーション

授業協議



対象生徒のねらいの妥当性や学びの見取りを中心に、学部研究日、授業研究会を利用した対話の機会を設定

成果

教師同士の対話を通し、対象生徒の学びを見取る姿勢の高まり

授業づくりのポイントを活用し、期待する姿に対する手立ての工夫が増加

児童生徒の自ら学びに向かう姿、主体性の高まり

次年度に向けて

自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりの継続

「自ら学び続ける子ども」の姿を共有し、授業づくりへ反映



自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりを充実

教師同士の対話の充実を図った授業改善

対話のメンバーや内容を含め、授業の検討を計画的に設定



対象生徒の見取りから、授業全体の改善へ



令和5年度 研究報告

発行年月	令和6年3月発行
発行所	秋田県立栗田支援学校
	〒010-1621 秋田市新屋栗田町10-10
	TEL 018-828-1162
	018-888-8171 (第2校舎)
	018-828-1170 (寄宿舍)
	FAX 018-828-4720
	ホームページ http://www.kurita-s.akita-pref.ed.jp/
	メールアドレス kurita-s@akita-pref.ed.jp

